2022 年度　学校法人 三幸学園　大阪ビューティーアート専門学校
自己評価報告書

自己評価報告責任者 ： 教務課長　笠原　美聡

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくするとことで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる（皆をハッピーにする）人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

コロナ禍においても学びを止めず効果的に授業を展開するという事が課題であった。2022 年度においてはコロナの影響が緩和され、感染対策を実施しながら対面授業の実施も出来るようになった。また、ネイルやメイク、エステの実習においてもウィッグを使用しての授業から相モデルで授業を進められるようになった。実際にウィッグを使用しての練習よりも相モデルで練習ができることは生徒の満足度も高い。その一方で、オンデマンド配信、デジタル教科書の採用など、**ICT を活用した授業展開も継続している。予習や復習がしやすいというメリットがある。**

2023 年度からは美容実習においては VR を活用している。また、2023 年には国家試験筆記 AI 問題集、2024 年にはヘアアレンジデジタル教科書が出来る予定で準備を進めている。

コロナ禍の影響としてメイク、特に美容部員求人が激減し**就職支援**が課題にあがっていた。限りある求人数だが、希望就職先に内定がいただけるように教員交代制で模擬面接や指導の機会を増やした。また、美容師免許の不要なブライダルサロン、スタジオなどの繋がりを増やし就職の斡旋をおこなった。正社員に留まらず派遣社員や契約社員などの形態から正社員登用のある企業とも連携した。

コロナ禍での**生徒たちの心の問題**に関するケアも課題の一つであった。姉妹校連携し、専門家のいる心の相談室を推奨している。また、2023 年 3 月に実施された三幸学園キックオフミーティングでは、『現代社会の特徴と若者の実態』というテーマで佛教大学副学長・教育学部教授　原清治先生による講演が実施された。最近の若者たちの特徴を講演いただき、生徒たちの年代が授業に何を求めているのか、何が嫌で何を好むのかなど、生徒指導をしていく中で大変参考になる内容だった。教員も何を教えたかということから、生徒が何を出来るようになったかというようにシフトチェンジが必要になってきている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

専門学校での教育を進めていく中で、生徒本人の美容を学びたいという気持ちがとても大切である。しかし、入学当初より夢があり目的や目標を持って入学してくる生徒も多いが、反面少数ではあるがなんとなく美容が好きという観点で入学してくる生徒もいる。入学後のオリエンテーションから学校での目標に留まらず、将来の自分の姿を想像し美容業界で働くことが楽しみになるように授業、行事の両面から生徒たちをサポートする必要がある。

② 今後の改善方策

一流のプロによる講話や技術のデモンストレーションなど、2 年間の教育の流れを点ではなく繋がりを持たせ向上心や意欲が途切れないようサポートしていく。また、上位層の生徒たちの活躍の場として、様々な委員会に加えて、コンテストにも力をいれていく。また、キャリアプランの構築のため、ホットペッパービューティー様の講話を2 年生の全生徒に実施していく予定。

③ 特記事項

三幸学園の教育理念　『技能と心の調和』

12 のコンピテンシー(3 つの能力と 12 の能力要素)

<u>前に踏み出す力</u>
・主体性
・働きかけ力
・実行力

<u>考え抜く力</u>
・課題発見力
・計画力
・創造力

<u>チームで働く力</u>
・発信力
・傾聴力
・柔軟性
・状況把握力
・規律性
・ストレスコントロール力

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①　課題

教員数も約 150 人と多く、情報伝達に時間がかかる。年に数回実施される全教員での会議だけではなく、MicrosoftTeams やメールなどを駆使し速やかな情報発信を実施しているが、周知するのに時間がかかってしまう側面もある。

生徒の単位に関わる出席状況の把握はとても大切で、授業担当だけではなく担任メンバーや教務チームもタイムリーに把握が必要となる。

②　今後の改善方策

2023 年より人的間違いを減らすため、WEB 出席簿をバージョンアップし、シンプルに入力しやすい仕様に変更。教務事務の作業量を減らし、効率的に状況把握をさせる。

2024 年からは学校事務の中でも経理の機能については各校での対応ではなく、地域で集約し学費、奨学金、経費などの管理できるよう、体制を整えていくことを検討中。

③　特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	3
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①　課題

トータルビューティー科 2 年のサロンワーク授業において、サロンワーク授業において、産学連携の一環として外部講師による授業を実施した。現場を想定しお出迎えからお見送りまでの一連の流れの指導を受けた。進みたい分野のプロから指導を受ける機会は生徒達にとって、とても良い経験となった。外部講師からの指導を受けられる機会が少ないため協力していただける企業様を増やしたい。

②　今後の改善方策

2023 年度よりトータルビューティー科で有給インターンシップ制度が始まる。インターンシップやサロンワークなどに協力をしていただける企業様の拡充をはかりたい。サロン様との交流の機会を増やし、現場にいる卒業生やサロン様と連携を取っていきたい。

③　特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①　課題

トータルビューティー科、美容科ともに 1 年生の退学率に課題を感じている。
特にトータルビューティー科は 1 年生だけではなく進級するタイミングなどでの 2 年生の退学が増えている。
主な退学理由は、目標喪失による学校生活不適応が圧倒的に多く、次いで心身耗弱による理由が多い。
2021 年　退学率　1 年　13.7%　　2 年　3.3%　美容研究科(3 年)　5.2%　全体　9.0%
2022 年　退学率　1 年　13.6%　　2 年　7.2%　美容研究科(3 年)　9.5%　全体　10.1%

②　今後の改善方策

コロナ禍で登校が減っているとき、人との触れ合いが少ない時期には退学率はかなり抑えられているが
通常登校が増えてくると、学校に遅刻や欠席をし、周囲とうまくコミュニケーションがとれているか不安になる生徒も増え、早期発見が出来ないと退学に繋がることもある。人前で注意を受けることだけではなく、褒められることも苦手な生徒が増えている。教員自身の生徒への対応方法のレベルアップを図りながらも、前向きに取り組んでいる生徒たちへコンテストの機会も増やしつつ、個へのアプローチにより退学を減らしていく。
2022 年度から入学前アンケートを実施している。高校までの経験と今後不安に思うことなどから
退学指数を算出しています。指数の高い生徒から面談を実施する、ベテラン教員が対応する、授業の際に注意深く様子を見ることができている。また、チーム担任制を採用しており、生徒が複数の先生と関係構築できる、話す内容で先生を選択するなどより良い関係を構築している。

③　特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①　課題

2022 年は求人数もコロナ禍以前に近づき、有名企業へ内定をいただいた生徒も増えた。しかし、美容業界における早期退職は長年の課題だと感じる。2 年間という時間をかけて、将来の夢に向かって勉学に励んできた生徒たちが、この業界で活躍できるようにしたいと考える。また、美容室は件数が多く案内もたくさんいただけるためどこのサロンを受けたらいいのかわからない生徒や、色々考え躊躇してしまい動き出しが遅い生徒もいる。

②　今後の改善方策

2023 に向けてはより自分の考えにあったサロンマッチングやキャリアプランを構築しそれにあった企業様へのエントリーを進めたい。例えば、将来的に店長を目指したい生徒が昇進制度のはっきりしないサロンに就職してしまうと自分には合わないのではないかと考えはじめ、お客様を大切にしたいという生徒が、来店客数の多いサロンや低価格で流れ作業になりがちなサロン様に就職すると早期退職に繋がってしまう。逆に歩合制を好みたくさんのお客様をこなしたい生徒にとってはいい場合もある。このようなマッチングをしっかり実施し企業様にとっても求める人材が就職できるようにすすめたい。動き出しの遅い生徒も、選び方を理解することでスムーズな就職活動が出来ると考える。

③　特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

この 3 年間はコロナ禍で海外研修は中止となっていた。

毎年 10 日間で実施している学外実習では、生徒が貴重な経験をさせていただいてる。しかし、サロン様によっては学外実習期間に何をさせていいかわからないというお声をいただくこともある。また、実習中に社会人としてのマナー(礼儀、遅刻連絡)が不足している生徒が、実習先でご指導、ご指摘を受けたことで続けられないと訴えてくる心の弱い生徒もいる。

② 今後の改善方策

海外研修は現時点で実施を予定している。今年から韓国研修もしくはヨーロッパ研修を選択することができる。

学外実習では受け入れサロン様向け説明会を予定している。サロンマナーを徹底し、基本的な接客スキルを身に付ける機会を日ごろから増やしたいと考える。授業を通して習慣化できるように促したい。

トータルビューティー科では有給インターンシップがはじまる。業界で働かせていただき、接客スキルや諸先輩方とのコミュニケーションなどを学ばせていただける良い機会になると考える。

③ 特記事項

2022 年度末に、6 階エステ室を全面改装した。清潔で非常に明るいイメージに仕上がっている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

引き続きニーズにあわせた広報活動をおこなっていく

③ 特記事項

2023 年入学生　美容科 213 名 ヘアメイク科 95 名　トータルビューティー科 217 名

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

②　今後の改善方策

引き続き法令等遵守を徹底していく

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献･地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座･教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①　課題

オンラインで教員が地域の方向けの美容講座を実施している。

2022 年度はコロナ禍という事もあり、施設利用は特に出来ていない。

②　今後の改善方策

生徒が実施するサロンワーク授業などで、地域の方や広く一般の方にぜひお客様として学校にお越しいただきたいと考えている。まだまだプロの技術というわけにはいかないが、かなり技術力も上がった生徒たちの接客や技術を是非受けていただきたい。

③　特記事項

特になし

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

①　課題

毎年、2名程度の留学生が入学する。日本での就職を希望しているが、就職支援が難航している。言葉の問題というよりは就労ビザの問題が大きい。

②　今後の改善方策

引き続き、受入れ可能な企業様企業様を探し就職活動の幅を広げていきたい。

③　特記事項

大阪ビューティーアート専門学校でも留学生が3名いる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

就活のイベントを通して、就活意識を高める取組を入れていく事が出来る。
美容業界で、長く働いてほしいという思いも非常に強くあるので、会社としてサロン側に「今のリアル」を伝えていきたい。学校と連携を取って、長く働ける人を一緒に育てていきたい。
2・6・2の法則の「下の層」であることに劣等感を持っている学生もいるので、そこに対してどのようにサポートしていくかが課題。入社する人には「一人ひとり夢がある」その夢を叶えることができるかを考えているので、会社としても成長をしていく必要がある。
学校での検定試験がゴールではなく、働いたときに学んだ内容を活かすことが非常に大事。習得スピードは人によって異なるので、遅い生徒は人の2倍の努力が必要。モチベーションを上げながら導いていく必要がある。
また、怒らない風潮が全体的にあるが時に指導や熱く語ることをしなければ業界で成長しないと感じる。
高校としても、美容業界の魅力や夢を見つける重要性について熱意を持って伝えていきたい。
安心で安全な学校運営を引き続き行っていきたい。生徒、保護者からだけではなく、取引先様や地域の皆さんから愛される学校づくりをしていきたいと考えているため、委員の皆様からのご意見をもとに改善していきたい。
また、卒業生が忙しい中でも活き活き頑張れる理由として、「上司が自分をしっかりと見てくれ、必ず個別のフィードバックが貰えること。」と話をしてくれました。委員の皆様との会話の中でも1ON1の対応が必要と意見を頂いたこともあり、今後の生徒対応でしっかりと活かしていきたい。